

人生100年時代シニア活躍推進事業 について

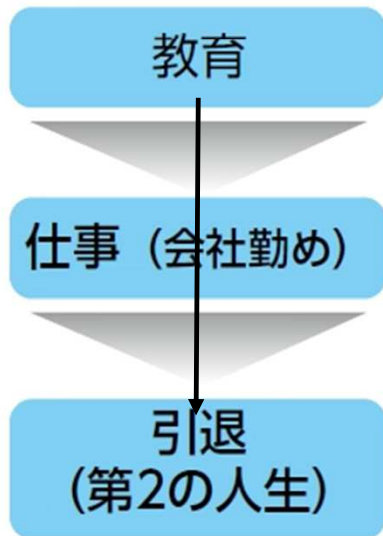
健康増進課

ライフステージの変化

- 人生100年時代の到来によるライフスタイルの変化
- 単線型から複線型の人生へ

〔これまでのライフスタイル〕

◆1シナリオ&3ステージの人生

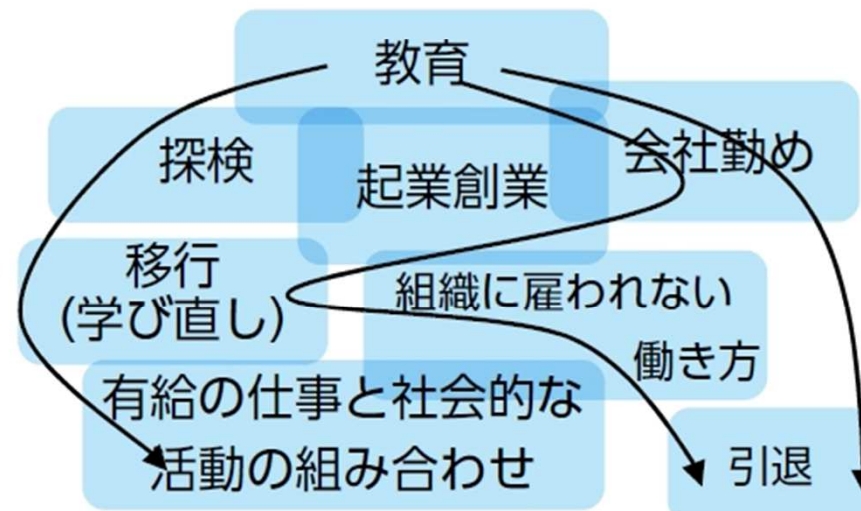


日本的企業文化
終身雇用
年功序列
会社中心社会
男性中心社会
大企業志向
安定志向

変革

〔これからのライフスタイル〕

◆マルチシナリオ&マルチステージの人生

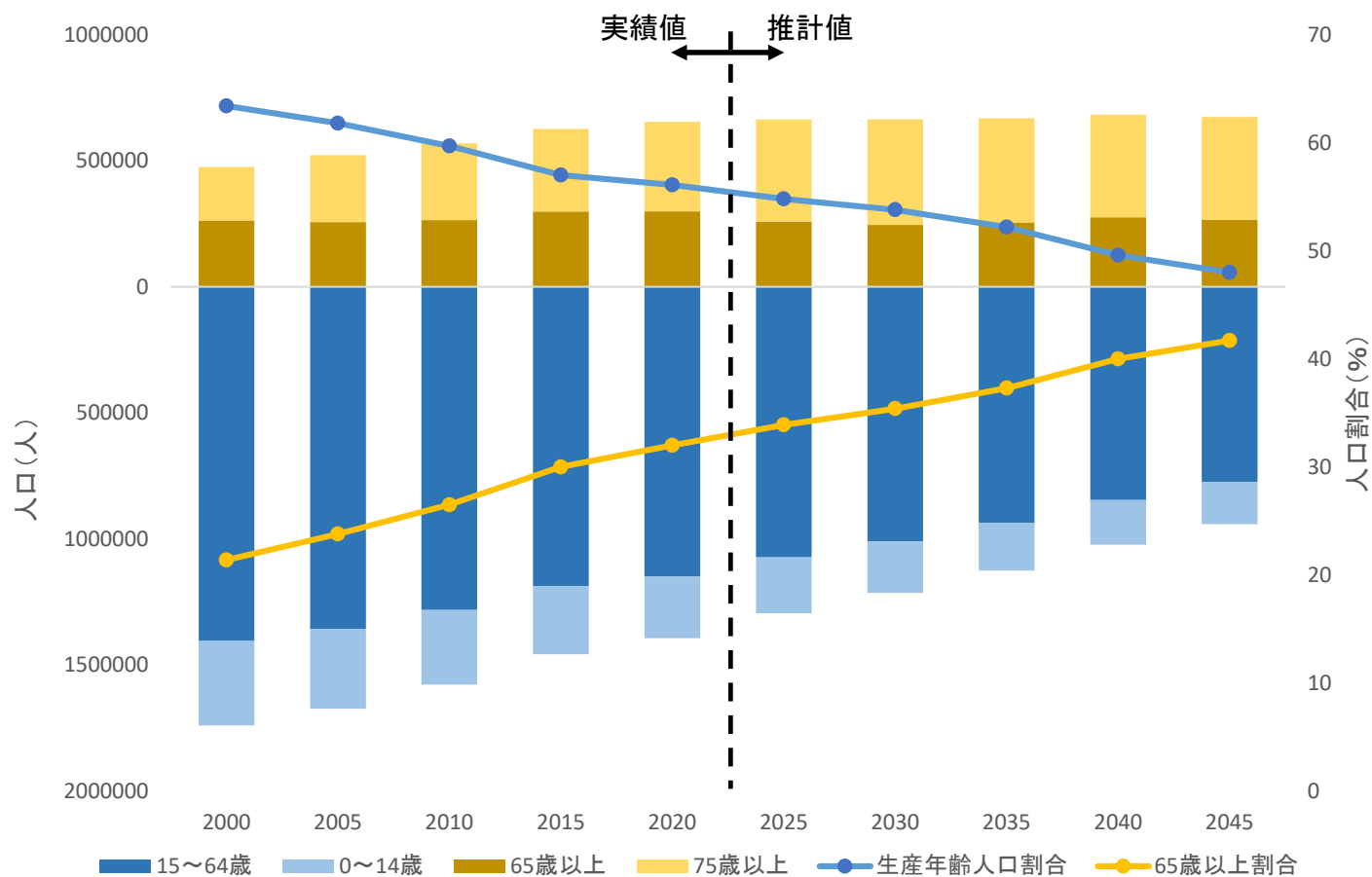


働き方改革
社会・家庭とのバランス
ソーシャル・ビジネス (社会貢献と仕事の融合)
人間性の回復

1 長野県の人口推移と将来推計

- 県内総人口が減少する中で、65歳以上の高齢化率は増加が続いている。
2020年は3人に1人が高齢者であるが、2045年には約2.4人に1人が高齢者となると推計されている。（長野県の高齢化は全国的に見て早い。）

長野県の人口推移と将来推計



長野県の高齢化率の推移		
年	高齢化率(%)	都道府県順位
2021年	32.3	19位
2045年(推計)	41.7	9位

内閣府「令和4年度版高齢者白書(全体版)地域別に見た高齢化」

(出典)2000年～2020年:総務省「国勢調査」
 2025年～2045年:国立社会保障人口問題研究所
 「日本の地域別将来推計人口(H30推計)」

2 健康寿命

- 長野県は健康寿命が男女ともに全国1位

健康寿命上位3都道府県（日常生活動作が自立している期間の平均）

(歳)

順位	平成25年			
	男性		女性	
	全国平均	78.7	全国平均	83.4
1	長野県	79.8	長野県	84.3
2	滋賀県	79.5	大分県	84.1
3	熊本県	79.4	滋賀県	84.0

(歳)

順位	令和3年			
	男性		女性	
	全国平均	80.0	全国平均	84.3
1	長野県	81.4	長野県	85.1
2	滋賀県	81.2	広島県	85.0
3	奈良県	81.0	島根県	85.0

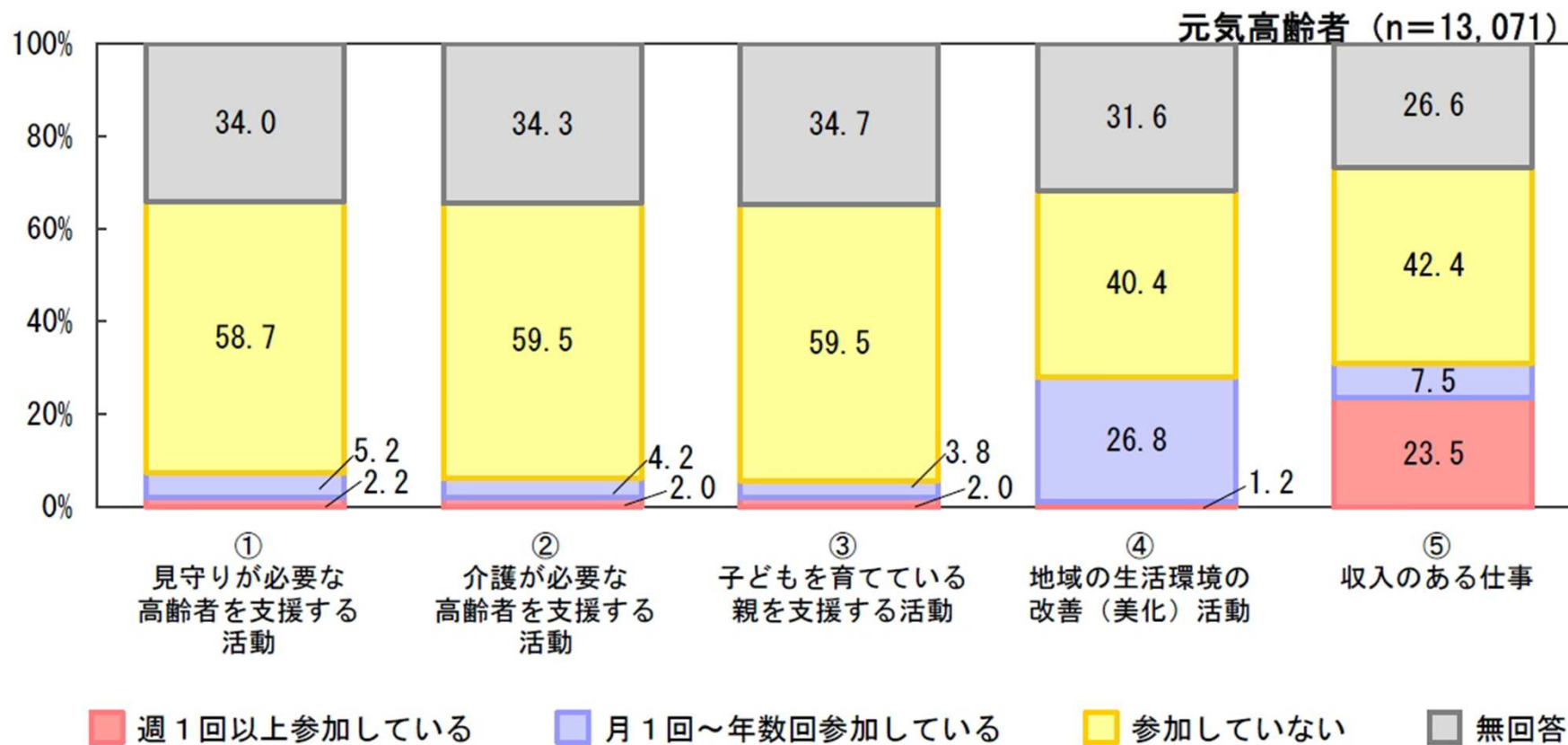
【算出方法】介護保険の要介護度2未満を健康な状態として、算出。

【出典】H25年調査、厚生労働科学研究班「介護保険の要介護度」
R3年調査、公益財団法人国民健康保険中央会「平均自立期間」

3 高齢者の社会参加活動や仕事への参加頻度

- 要支援・要介護認定を受けていない高齢者（元気高齢者）のうち、社会参加活動や仕事においてすべての活動で、「していない」と回答した者の割合が4割以上を占めている

社会参加活動や仕事への参加頻度



【出典】長野県「令和元年度 高齢者生活・介護に関する実態調査（元気高齢者等実態調査）」

4 総合5か年計画における本事業の位置づけ

- 今年度から総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン3.0」がスタート
- 政策の5つの柱の一つ「誰にでも居場所と出番がある社会をつくる」の施策例に「高齢者の活躍の支援」が明記されている

現状と課題 (長野県を取り巻く状況)

- ・少子化と人口減少の急速な進行
- ・社会に存在する様々な格差
- ・東京一極集中から地方分散への動き
- ・ライフスタイルや価値観の多様化 等

計画体系

長野県を取り巻く状況を踏まえ
政策構築・推進に当たっての共通視点

- ・少子化を食い止め人口減少に対応する
- ・社会的公正や多様性、包摂性を追求する 等

基本目標

確かな暮らしを守り、信州からゆたかな社会を創る

政策の柱

- 1 持続可能で安心した暮らしを守る
- 2 創造的で強靱な産業を育てる
- 3 快適でゆとりある暮らしを創造する
- 4 誰にでも居場所と出番がある社会をつくる
- 5 誰もが主体的に学び続けられる社会をつくる

めざす姿(抜粋)

・年齢、性別、国籍、障害の有無にかかわらず、誰もが個性や能力を発揮し活躍するとともに、他者を認め、思いやり、共に支え合う共生社会が実現

施策の例

高齢者の活躍の支援 等

5 人生100年時代シニア活躍推進事業

○人生100年時代の到来を見据え、シニア世代が、培ってきた豊富な知識と経験を社会参加や仕事などの様々なステージで生かし、生涯を通じて生きがいを持って活躍できる社会の実現を目指し、シニアの多様な活躍を推進

人生100年時代シニア活躍推進県民会議の開催

- ・ 関係団体（17団体：商工会、シルバー人材センター、社協、JA、観光機構等）
- ・ シニア活動推進コーディネーター
- ・ 県関係課 → 庁内連絡会議

★具体的な取組内容

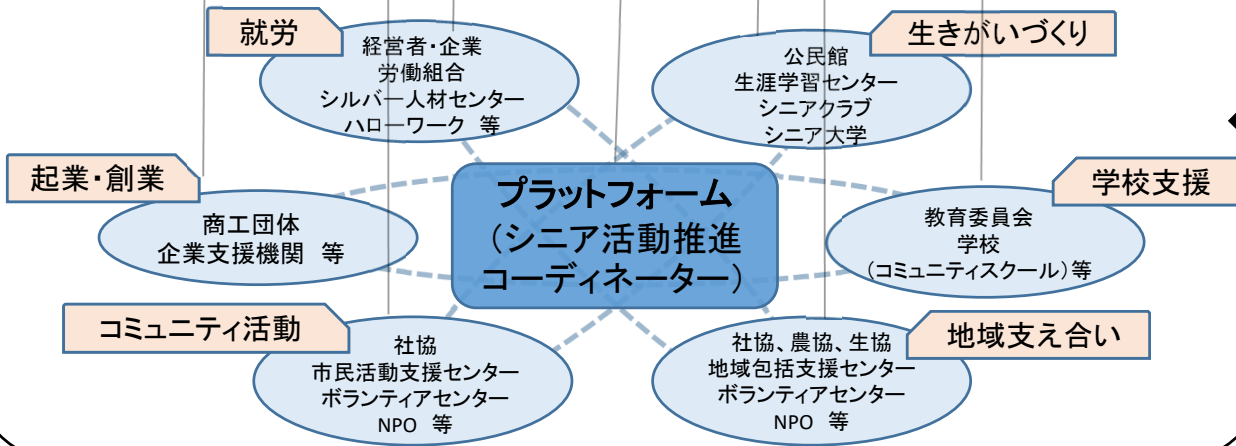
- ネットワーク会議の開催（広域的かつ多様な主体との連携）
- 地域の課題に応じる相談窓口機能（相談者と協力者のマッチング）
- 地域で活躍できる人材の育成（長野県シニア大学の開講）
- シニアの活躍の場の提供・社会参加活動の普及啓発
 - ・ タウンミーティングの開催
 - ・ 信州型コミュニティスクールの支援
 - ・ 生きがい就労の促進
 - ・ 地域の居場所づくりの支援
 - ・ 企業や公民館を活用した現役世代への啓発

解決策の検討・県施策へ反映
 ↓
 各圏域の活動事例・課題の共有
 ↑

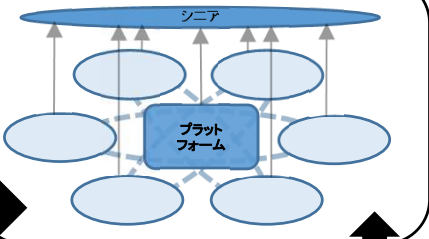
シニアが地域で活躍できる仕組みづくり

圏域

シニア

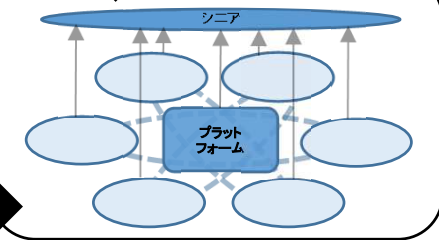


圏域



10圏域で
連携

圏域



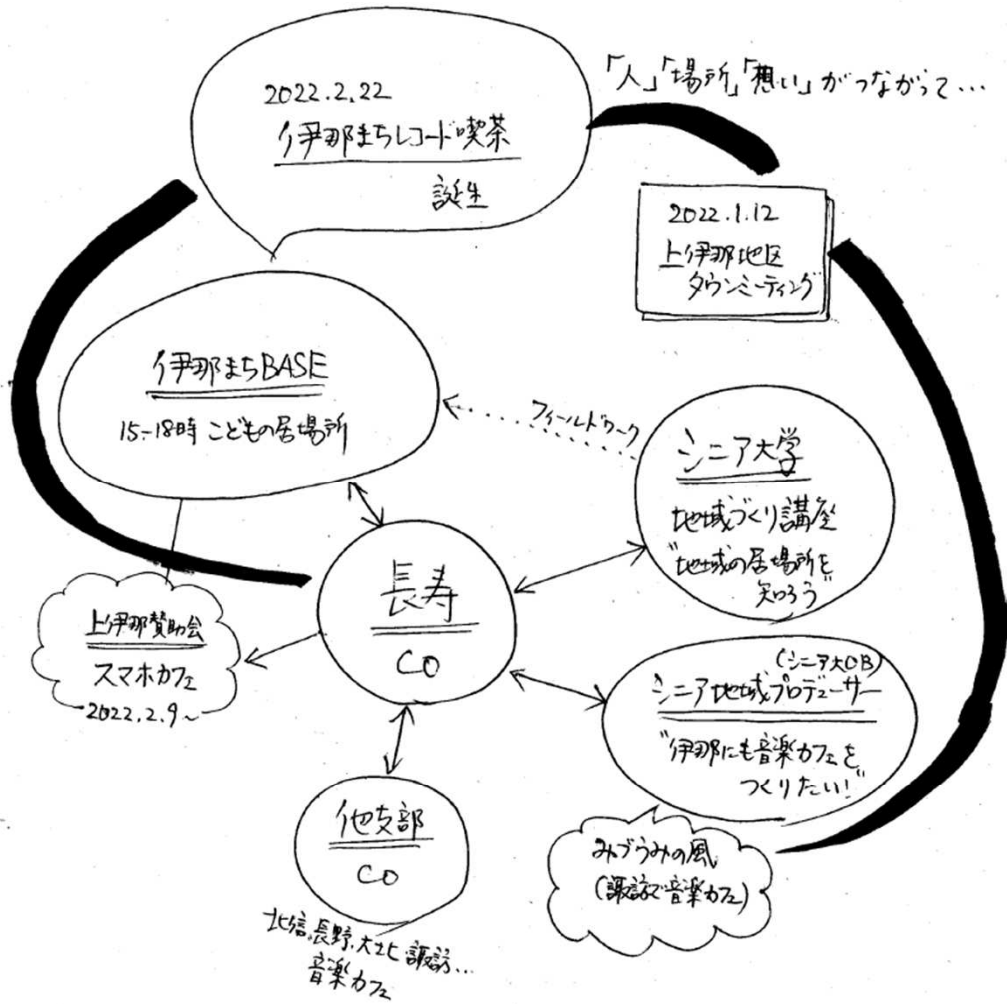
6 シニア活動推進コーディネーターによる居場所創出例①

○長野市の事例・・・フレイル予防ナビゲーター



7 シニア活動推進コーディネーターによる居場所創出例②

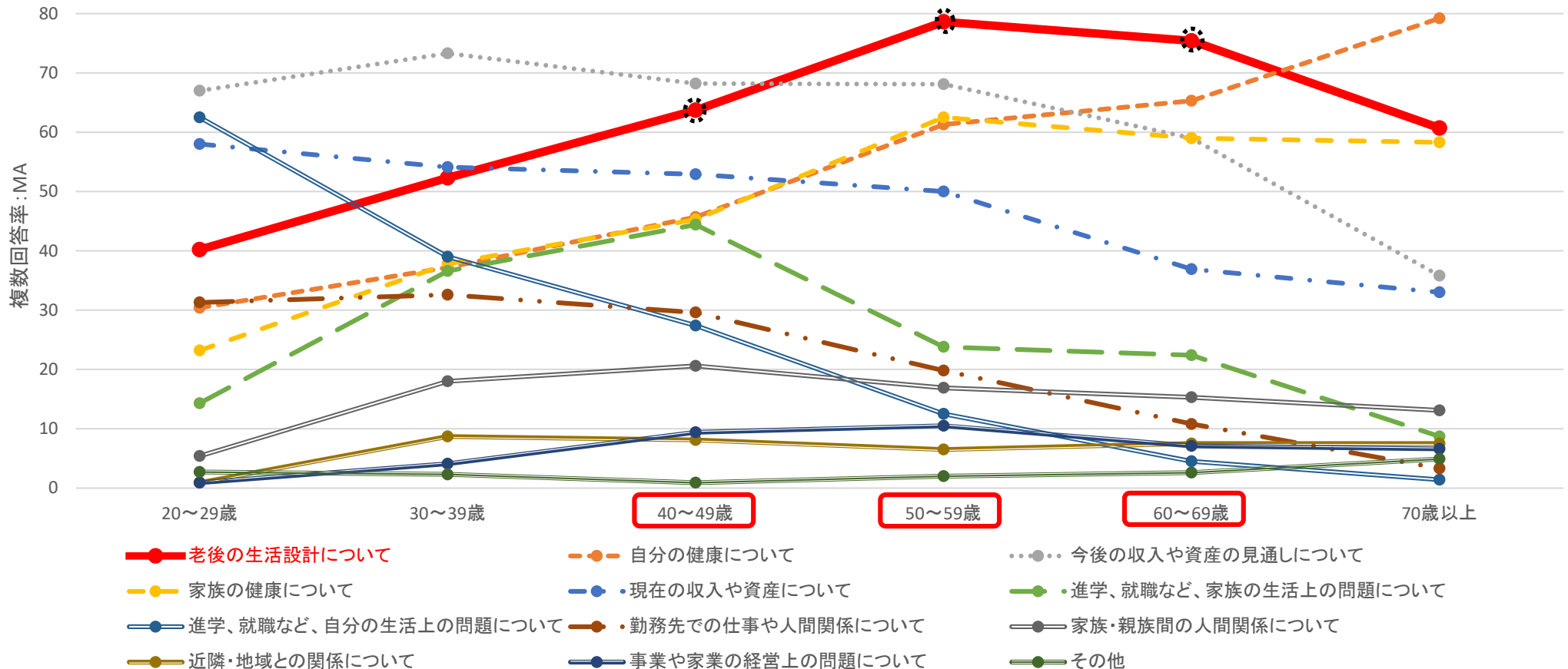
○伊那市の事例・・・伊那まちBASE（伊那市通り町商店街）



8 各世代の将来に対する不安・悩み

○中高年の日常生活での悩みは、老後の人生設計に対することが一番多い
 →現役世代である中高年に対して「退職後の人生を充実させるライフデザイン」の啓発を早期に図る必要がある。

(設問) 日常生活での悩みや不安を感じているのはどのようなことについてですか。(複数回答) n=1,450



【出典】R4年10月調査、内閣府「国民生活に関する世論調査」

9 昨年度の県民会議振り返り

○シニアの活躍について、「現役世代」「元気シニア」「様々なハンディを持っているシニア」の事例発表を踏まえ、それぞれどのような活躍が考えられるかについてワークショップ
 ○それぞれの状況に合わせた、多様な活躍のしかたがあることについて共有

Aグループ



Bグループ



Cグループ



Dグループ



Eグループ



会議の様子

10 本日のワークショップについて

- 30年後の将来について想像し、自分自身や地域・社会の在りたい姿を考える
 - シニア世代に近い年齢となっていることを踏まえ、自分事として将来を考えるきっかけ
- 上記の在りたい姿を実現するために、個人や組織としてどのような取組を行うことができるかについて考える

